

令和6年度 登米市 下水道事業 会計決算の概要

1 決算規模

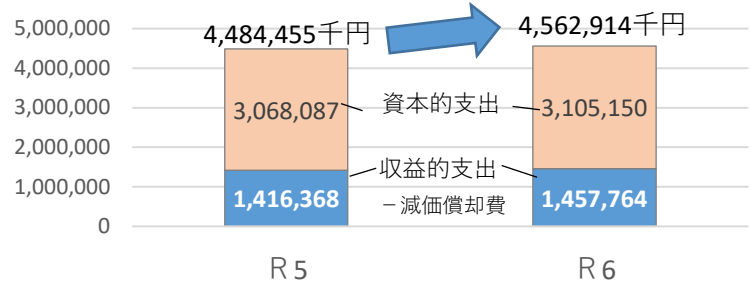
45億6,291万4千円

(= 収益的支出 - 減価償却費
+ 資本的支出)

※前年度比 約7,800万円の増

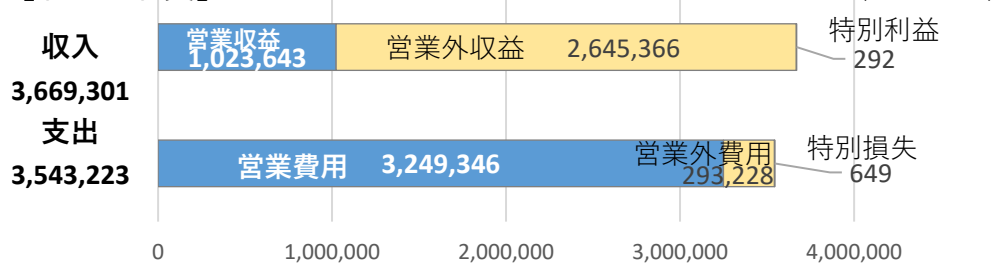
⇒汚水管渠更新事業などによる建設改良費の増加(約3千700万円)、減価償却費の減少(約4千万円)などによるもの

【決算規模の前年度対比】

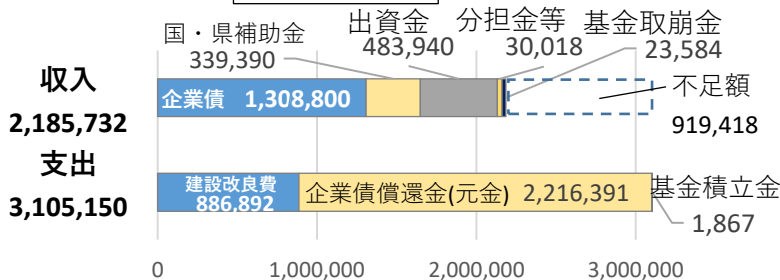


2 予算執行状況 (消費税込み)

【収益的収支】 決算書P6・7



【資本的収支】 決算書P8・9



※ 主要事業

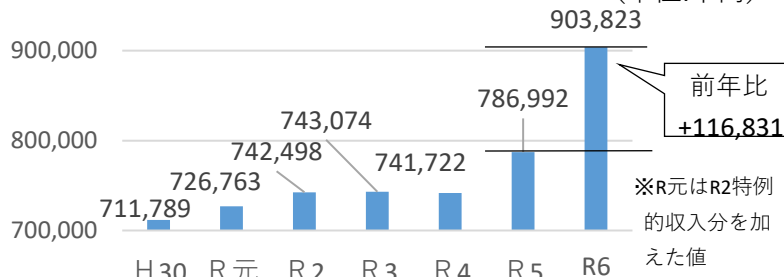
- ・ 下水道使用料改定 (激変緩和終了)
- ・ 登米幹線管渠改築工事など汚水管渠の更新
- ・ 大東地区雨水排水路の整備
- ・ 佐沼環境浄化センター設備更新工事など処理場施設の更新
- ・ 合併処理浄化槽の整備(52基)

3 経営状況 (損益詳細 消費税抜き)

決算書P13

(1) 営業収益 933,260千円 (前年比 116,841千円)

【下水道使用料(税抜)の推移】



下水道使用料収入の増加
・ 水洗化人口は減少しているものの、一人当たりの汚水排水量の増及び使用料の改定により増加

R5 比

水洗化人口：328人減

一人当たりの排水汚水量：0.7㎡増

(2) 営業費用 3,156,503千円 (前年比 14,148千円)

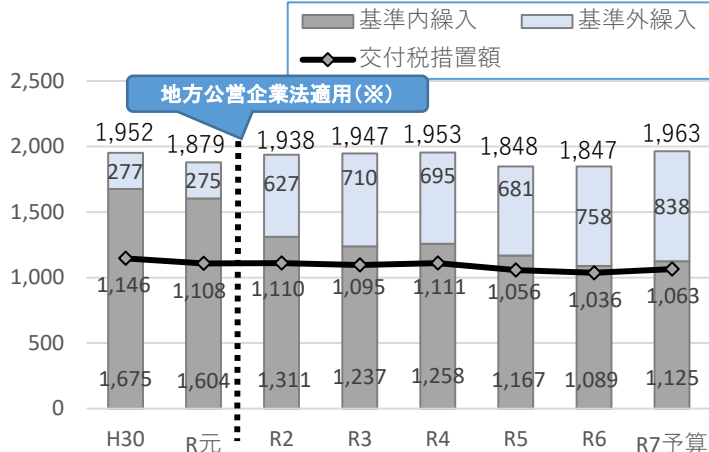
処理場費委託料 (55,401千円) の増などが主因

(3) 営業利益 △2,223,242千円 (前年比 102,694千円)

《主な増減要因》

(4)営業外収益	2,614,355千円 (前年比 △94,792千円)	他会計補助金等の減
(5)営業外費用	311,087千円 (前年比 △22,113千円)	企業債利息の減
(6)経常利益	80,026千円 (前年比 30,015千円)	
(7)特別利益	282千円 (前年比 98千円)	過年度損益修正益の増
(8)特別損失	591千円 (前年比 211千円)	過年度損益修正損の増
(9)当年度純利益	79,717千円 (前年比 29,902千円)	

【一般会計繰入の推移】(百万円)



・一般会計繰入金は近年20億円弱で推移

⇒ R 5.10月からの使用料改定により、一般会計繰入金は当面は年間20億円弱で推移する見込み。更なる維持管理費等経費の縮減に努める必要がある。

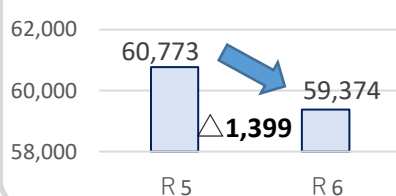
(※) 地方公営企業法適用事業と非適用事業では基準内繰入の算定方法が異なる

・最終予算における予定損益計算書より純利益が79,947千円増(純損失が減)。主な要因は、委託料(33,772千円)、動力費(20,455千円)、修繕費等(15,379千円)、予備費(15,000千円)の減。

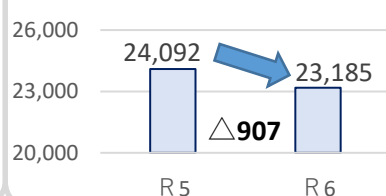
4 財務諸表の調整

- (1)損益計算書 **決算書P13** 当年度純利益79,717千円、当年度末処分利益剰余金2,380千円
 (2)剰余金計算書 **決算書P14・15** 他会計繰入金(出資金)483,940千円を資本金へ繰入など
 (3)貸借対照表 **決算書P16・17** 資産の減価償却の進行により、前年度比1,398,507千円減少

【資産総額】(百万円)



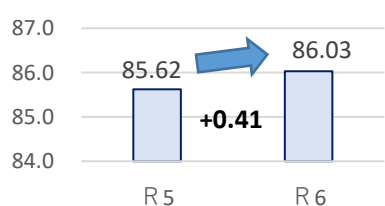
【企業債残高】(百万円)



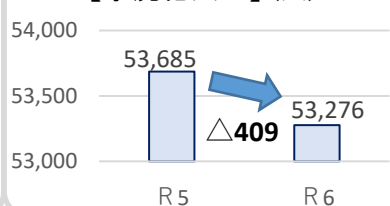
(4)事業報告 **決算書 P35・36**

※水洗化人口の内、本市下水道使用者はR6で48,430人(前年度比 △328人)

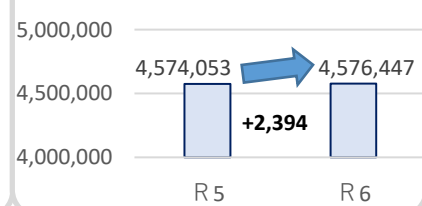
【汚水処理人口普及率】(%)



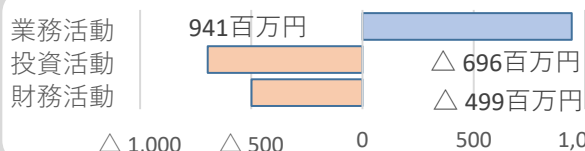
【水洗化人口】(人)



【有収水量】(m³)



(5)キャッシュ・フロー計算書 **決算書 P46**



業務活動で資金が得られ、かつ借入金残高を減少させながら建設投資が行われており、比較的安定した経営状況。

資金期末残高498百万円(前年比△255百万円)